

古代アメリカ学会第7回東日本部会研究懇談会のお知らせ

第7回東日本部会研究懇談会を以下の要領で開催します。ふるってご参加下さい。また非会員の方も参加できますので、関心をお持ちの方にはぜひお声をおかけ下さい。参加の事前登録は必要ありません。

〔研究懇談会概要〕

今回の研究懇談会は、メキシコ中央高原の都市形成、発展、衰退のプロセスと言った問題に取り組む考古学調査団の成果と課題について、考古理化学やパブリック考古学研究を加えた総合的な取り組みについて報告いただきます。また学会員の枠を超えて発表者・コメンテーターを迎え、発展的な議論の機会にしたいと思います。是非この機会にふるってご参加ください。

発表1 「トラランカレカ考古学プロジェクトの調査目的と成果（2012-2017）」

【発表者】 村上達也（デュレーン大学）、嘉幡茂（ラス・アメリカス・プエブラ大学）、フリエタ・M.=ロペス・J.（メキシコ国立自治大学）、福原弘識（埼玉大学）、荒木昂大（東北大学）

【コメンテーター】 加藤泰建（埼玉大学）

【概要】

トラランカレカ考古学プロジェクトは、形成期のメキシコ中央高原における都市の形成、発展、衰退のプロセスを解明し、どのように社会の統合化と差異化の過程が都市空間の変容に繋がっていったのか検証することを目的としている。さらに、いかにして形成期の社会変動が古典期前期におけるテオティワカン国家の形成と拡大へ繋がっていったのか、その歴史的・文化的背景を解明することを目的としている。

発表者らは、トラランカレカ遺跡で現在まで六期にわたる現地調査を実施し、その中で地形測量、表面採集調査、ボーリング調査、土壌分析、発掘調査を行ってきた。これらのデータを基に、トラランカレカ社会の形成とこの都市の変容過程、そしてどのように形成期の社会変動が引きこされたのかに関する仮説を提示できるに至った。

本発表では、トラランカレカで定住村落が成立した紀元前 800 年頃から、都市化が始まった形成期中期後半（前 650～500 年）、そして都市の最盛期である形成期終末期（前 100 年～後 250 年）までの社会の変容を概観し、これまでの調査成果が形成期のメキシコ中央高原における社会変化を理解する上でどのように貢献しているのか議論する。特に、形成期終末期に関するデータは、今まで定説となっていたテオティワカン国家の形成過程に対して大きく修正を促すものである。結論として、都市形成や国家形成といった大規模な社会変容を理解するには、これらをメキシコ中央高原地域全体、さらにはメソアメリカ地域全体の中での社会変容として理解する必要がある、この枠組みの中で各地域の個別事例を考察すべきであると主張する。

発表2 「Aplicación de las técnicas arqueométricas en los estudios arqueológicos de Tlalancaleca: Caracterización de los materiales constructivos」

【発表者】 フリエタ・M.=ロペス・J. (メキシコ国立自治大学)

【コメンテーター】 井口欣也 (埼玉大学)

【概要】

Recientemente se ha hecho indispensable la aplicación de varias técnicas arqueométricas en los estudios arqueológicos, sus resultados han contribuido a, por ejemplo, refinar la cronología establecida por la tipología cerámica, entender la técnica de manufactura, determinar la composición, identificar la procedencia, y detectar falsificaciones de artefactos.

En esta ponencia, hablaremos del estudio de caracterización de los materiales de tierra utilizados para la construcción en Tlalancaleca, aplicando las técnicas XRD, XRF, PIXE y MEB a restos arquitectónicos (adobes, argamasas, pigmentos y enlucidos de lodo) y posibles fuentes circundantes al sitio. Los resultados nos permitirán identificar cuáles fueron los bancos de materiales utilizados por la sociedad de Tlalancaleca a través del tiempo. Por otro lado, mostraremos la base de datos georeferenciada de los bancos de materias primas que hemos recolectado hasta el momento. Proponemos que esta sea una base de datos abierta y de consulta para otros investigadores.

発表3 「トラランカレカにおけるパブリック考古学の実践：地域住人のアイデンティティと持続可能な考古学調査を求めて」

【発表者】 嘉幡茂、小林貴徳 (関西外国語大学)、フリエタ・M.=ロペス・J.

【コメンテーター】 サウセド・セガミ・ダニエル (立命館大学)

【概要】

メキシコ・中米諸国では、スペイン人による16世紀の征服とその後の文化的混血から、社会成層や民族問題が複雑化し、不安定なアイデンティティが形成されるに至った。特にメキシコ中央政府は国民を統一するため、古代文化を取捨選択し、選んだ文化に過剰な栄光を与えてきた。テオティワカン（前100～後600年）からトルテカ（900～1150年）、そしてアステカ（1325～1521年）へと古代史を単系化し、これら以外の古代社会に政治的価値を見出さなかった。結果、公定の古代文化に歴史的な繋がりや文化的誇りを見出せない周縁に位置する人々は、政府が喧伝するナショナリズムを共有できず、アイデンティティ形成の拠り所を失った。トラランカレカ遺跡の近郊に住む人々も例外ではない。

従来の考古学研究は、過去に生きた人々の社会復元を求め発展してきた。近年、考古学の現代社会における役割や影響力について考察する研究（パブリック考古学）が活発化している。発表者らは、海外で調査を実施する意義、そして、調査活動が地域住民にどのような影響を与えているのか、さらには考古学と地域社会はどのような関係にあるべきなのかを考古学研究の枠組みの中で行うべきだと理解する。本発表では、トラランカレカにおけるパブリック考古学の目的、実践方法、そして成果について述べる。

〔日時〕 2017年12月17日（土）

- ・開会あいさつ 14:00
- ・発表1 14:10～15:10（発表時間40分＋コメント及び質疑応答20分）
- ・小休憩（10分）
- ・発表2 15:20～16:20（発表時間40分＋コメント及び質疑応答20分）
- ・小休憩（10分）
- ・発表3 16:30～17:30（発表時間40分＋コメント及び質疑応答20分）

〔会場〕：専修大学神田キャンパス 5号館4階 542教室（千代田区神田神保町3-8）
九段下車5分徒歩3分、神保町駅下車A2徒歩3分、JR水道橋駅徒歩7分

〔主催〕：古代アメリカ学会

〔連絡先〕：

- ・東日本部会幹事・福原弘識（非常勤講師） hironorifukuhara@gmail.com
- ・古代アメリカ学会事務局 jssaa*sa.rwx.jp
（上記アドレスの*を@に換えて下さい）